

関西理学療法学会 一泊研修 ナイトセミナー  
“治療と変化について考える” 六地蔵総合病院の場合

六地蔵総合病院 リハビリテーション科 渡邊 裕文

治療の変化についてどう考えるか、と聞かれて皆さんはどのように答えるのであろうか。なかなか難しい問題である。今回のお題を頂いたときに、はっきりこのようなものだという自分なりの答えをもって臨めない自分がいたのも事実である。もしかしたら治療後の変化に対して、見ている側は全く変化していないと捉えるかもしれないが、実はセラピストと患者様の間では、かなりの変化を感じているかもしれない。またその逆もあるであろう。そんなことを考えたら、実際の治療場面を見て、そのセラピストがどのような思考のもと、なぜその治療をしたのか、どのように感じたのか、などを推察することも大変有意義になると思えた。そのなかでその患者様をどう捉えるか、問題点などをどう考えるか、それらを深めることにより今後の治療や目標を明確にしていけると言える。それぞれのセラピストが個人のなかでこのような思考が展開できれば、治療を変え、それにより治療による変化を変えていけると信じている。

当日は脳血管障害患者様の実際の治療場면을提示して（時間があれば2症例を予定）、参加された先生方とさまざまな角度から討議していかれたらと考えている。症例は平成22年12月に脳出血を発症し、リハビリテーション目的に当院回復期リハビリテーション病棟に入院中の患者様である。かなり広範囲に病巣があり、発症から約3ヶ月経っている患者様の最近の治療を提示する。時間があるときには、当院外来にて通院中の慢性期脳血管障害患者様の治療の紹介を予定している。

討議の着目点は以下のポイントに絞って、参加された先生方と患者様の問題点や治療の変化などについて考えていきたいと思っている。

# 1 考えられる機能障害レベルの問題点をどう考えるか？

姿勢緊張、運動機能、感覚、知覚、認知面、感情面、生体力学的な面などから

# 2 現在の能力障害レベルは？

# 3 潜在能力をどう考えたか？

# 4 目標（短期、長期）をどのように設定するか？